

第22回／2025年超モノづくり部品大賞

大賞にオーエスジー

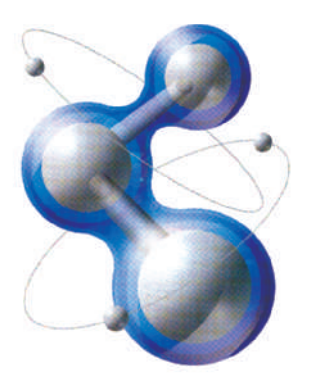
高性能・低炭素型転造タップ GREEN TAP『GRT』

モノづくり日本会議(日刊工業新聞社)は、12月11日に「第22回／2025年超モノづくり部品大賞」の贈賞式を都内で開いた。大賞に輝いたオーエスジーの「高性能・低炭素型転造タップ GREEN TAP『GRT』」をはじめ、6部門の部品賞など、計41件に賞が贈られた。オーエスジーの『GRT』は、カーボンフットプリント(CFP)の削減に向け、同社の従来技術と最新技術を組み合わせて生み出した製造法によって作られた。製造時の二酸化炭素(CO2)排出量を従来比35%削減するとともに、折れにくく、加工速度を向上させた点などが評価を受けた。



モノづくりを下支え

モノづくり部品大賞(経済産業省、日本経済団体連合会、日本商工会議所後援)は日本のモノづくりを支える優れた部品・部材に光を当てる顕彰事業で、22回目の開催。今回は大賞のほか、モノづくり日本会議共同議長賞1件、ものづくり生命文明機構理事長賞1件、日本力(にっぽんぶらんど)賞4件をはじめ、機械・ロボット、電気・電子、モビリティ関連、環境・資源・エネルギー、健康福祉・バイオ



モノづくり日本会議 モノづくりへの挑戦

■講評■ 日本工業大学工業技術博物館 館長／上智大学名誉教授

清水 伸二氏



基盤的な変革技術を徹底追求 課題解決

多数の応募部品を審査を飛躍的に高める重要な役割を果たしているとして、受賞部品は単なる部品ではなく、最終製品の開発技術内容を分析すると、最終製品に変革を起すための共通の基盤的な変革技術が存在していることが分かった。それはデジタル化、見える化、知能化、モジュール化、柔軟化、つなぐ化、持続可能化という7項目の基盤的な変革技術に集約できる。今回の応募部品はこの基盤的な変革技術の幾つかを徹底的に追求しており、レベルがとても高かった。長年未解決のまま持ち越されてきた課題を、新しい発想・概念を基盤として解決した部品が多く、開発に携わった方々に敬意を表する。今後も受賞を目指して励んでもらう。企業が互いに開発したニーズを発表し合い、学び合う場としてこの場を活用してもらいたい。今回はさらに独創的な部品がめじろ押しとなり、審査員を困らせてくれることを期待し、楽しみにしている。

あいさつ

経済産業省 製造産業局長 製造産業戦略企画室 室長

荒川 洋氏



製造業を支える部品精度の重要性に着目

受賞された企業の皆さま、思えば、実際にはモノづくりや製造業において重要な存在だ。日本の産業感じることもあろうとは、製造業を最も牽引してき



喜びの声

挑戦の姿勢を形にした切削工具 性能と環境対応を両立



オーエスジー 社長 大沢 伸朗氏

グリーンタップは当社が掲げる「Beyond the Limit」という挑戦の姿勢を形にした製品だ。切削工具の加工性能を引き上げ

神坂拓日刊工業新聞社社長(左)から受賞する大沢オーエスジー社長

つ、環境負荷低減を正面から見据え、カーボンニュートラル・温室効果ガス排出量実質ゼロ時代に向かわしモノづくりを支える製造業を開発しようという信念のもと、開発チームが知恵と技術を結集して完成させた。オーエスジーは創業88年を迎える。創業製品のねじ切り工具のタップに始まり、多くの切削工具に幅を広げ、さらに世界市場において活躍の場を求めてきた。その挑戦の歴史がこのグリーンタップに結実した。

世界の製造業は大きな転換点にある。性能だけでなく、環境対応も加わり、この環境対応も選択の必須条件となつていく。こうした課題解決をいかに技術革新で乗り越えるかが日本、ひいては世界のモノづくり産業の持続的な発展につながる。当社も今回の受賞を励みに、今後も性能と環境対応を両立する工具開発に引き続き注力し、モノづくり産業の発展に寄与していきたい。

第22回／2025年超モノづくり部品大賞受賞企業名

- 【超モノづくり部品大賞】
 - ▽オーエスジー(高性能・低炭素型転造タップ GREEN TAP『GRT』)
- 【機械・ロボット部品賞】8件
 - ▽オリエンタルモーター
 - ▽NTN
 - ▽三菱マテリアル
 - ▽フジキン
 - ▽ソディック
 - ▽安川電機
 - ▽プロテリアル
 - ▽タンガロイ
- 【電気・電子部品賞】4件
 - ▽トレックス・セミコンダクター
 - ▽ルーム
 - ▽日清紡マイクロデバイス
 - ▽日本トムソン
- 【モビリティ関連部品賞】3件
 - ▽ジェイテクト
 - ▽ネクストコアテクノロジーズ
 - ▽不二越
- 【日本力(にっぽんぶらんど)賞】4件
 - ▽豊田合成(廃車由来の再生プラスチックを使用したクラブボックス)
 - ▽スギノマシン(ロボットマシニングユニット「SELFDEEDER DUO Robot Edition」)
 - ▽日本精工(食用油劣化防止剤)
- 【ものづくり生命文明機構理事長賞】
 - ▽リファインホールディングス(Regenature及びその成体)
- 【環境・資源・エネルギー賞】11件
 - ▽健康福祉・バイオ・医療機器部品賞
 - ▽エコサイクル
 - ▽軍タイス
 - ▽ENEOS
 - ▽愛励賞
 - ▽栃木屋
 - ▽新川電機
 - ▽太洋工業
 - ▽住友ゴム工業
 - ▽文化シヤッター
 - ▽TDKラムダ
 - ▽椿本チエイン
 - ▽MOLDINO
 - ▽ダイキン
 - ▽タキゲン製造
 - (各賞とも応募受付順)

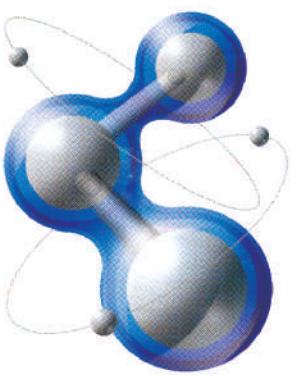
超モノづくりへの挑戦

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどのイベントや交流会などの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。少子高齢化、環境対応、資源・エネルギー問題など様々な課題を乗り越え、「超モノづくりの推進」をテーマに、事業を進めております。これまでの取り組みを発展・拡充させるとともに、IoTやAIを含めたロボット産業や「防災イノベーション」など、横断的なテーマについては、より実践的な成果を目指します。先進的な技術やノウハウを有する会員企業をはじめ、多彩な連携機関のご協力をいただき、モノづくり産業のさらなる発展を目指して事業を展開し、モノづくり産業の競争力強化につながるよう、地域間、企業間連携をおこない、ビジネスマッチングなども図っていきます。

モノづくり日本会議の事業

- グローバル競争力強化関連事業
 - ・モノづくり力徹底強化検討会
 - ・人材育成関連事業
 - ・長寿企業イノベーション勉強会
 - ・ビジネスモデル価値創造研究会
 - ・新モビリティ研究会
 - ・企業価値革新検討会
- 新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業
 - ・新産業技術促進検討会
 - ・ロボット研究会
 - ・AI研究会
- その他の事業コンテンツ
 - ・顕彰事業 超モノづくり部品大賞
 - ・モノづくり推進シンポジウム
 - ・特別講演会
 - ・地区別研究会
 - ・交流・マッチング事業
 - ・会員向け調査レポート

各事業の詳細は、モノづくり日本会議ホームページ(www.cho-monodzukuri.jp)をご覧ください。



お問い合わせ先 モノづくり日本会議

モノづくり日本会議事務局 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14番1号(日刊工業新聞社内) Tel.03-5644-7608 Fax.03-5644-7209

